



帰国生の学校選び A to Z

●第5回●

帰国生入試面接の対策とは？

帰国生入試で必ずと言っていいほど多くの学校で課されているのが面接です。ただし、対策が立てにくいこともあり、なんとかなるといふ軽い気持ちで臨む受験生が多いのも実情です。しかし、帰国生入試においては面接が合否に大きな影響力を持っており、面接で失敗して不合格になることもあるため、面接の実態を知り、予め準備をすることが大切です。

面接での質問内容は多岐にわたりますが、大きくまとめると「なぜこの学校に入学したいのか」、「入学後に何をしたいのか」、「卒業後にはどのような進路を希望しているか」、「在住国や通学した学校について」などです。ほかにも自分の性格や、併願校について、受験校に関して知っていること、最近読んだ本や興味を持っているニュースなどについても聞かれます。また、これらをどのように聞かれても的確に答えられるようにする必要もあります。そのためには面接の練習を積み重ねることも重要ですが、質問に答えられるだけの知識や情報を吸収し、蓄積することが大切です。例えば、入学したい理由や入学後の抱負、卒業後の進路などについて考え、それを表現できるようにまとめておくこと。そして、その答えは受験校のことを十分に理解しているものでなければなりません。さらに、複数の学校を受験する場合には、学校案内やウェブサイトにて各々の学校のことを調べ、それらに見合った答えを用意しておく必要があります。

また、面接においては面接官に好印象を与えることが重要です。元気よく大きな声で答えることはもちろんですが、受験校入学への熱意ややる気を表さねばなりません。たとえその学校が第1志望ではないとしても、消極的な印象を与えれば不合格になることもあるからです。



執筆者：丹羽 筆人

(文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー)

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org / Phone & Fax 1-855-926-1140